

平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

- 研究機関 : 富士通株式会社、沖電気工業株式会社、日本大学、
北陸先端科学技術大学院大学
- 研究開発課題 : 先進的 ICT 国際標準化推進事業「スマートコミュニティにおける
エネルギーマネジメント通信技術」
- 研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度
- 代表研究責任者 : 高橋 英一郎

- 総合評価 : 適 (適／条件付き適／不適の3段階評価)
(評価点 18 点／ 25 点中)

(総論)

関連省庁の所掌にとらわれず、社会に貢献するという立場から適切な成果を出すことが期待される。

(コメント)

- 総務省・経産省といった関係省庁の所掌にとらわれず、スマートコミュニティを実現するという観点から、社会全体に貢献可能な成果を出すことが期待される。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4 点

(総論)

当初の計画の範囲を超えて実証を進めており、評価ができる。関連領域が幅広い事から成果を丁寧に整理し、社会へ貢献できる成果を出すことが期待される。

(コメント)

- 当初の計画範囲を超えて実証を進めている。
- 関連領域が幅広い事から成果を丁寧に整理し、社会へ貢献できる成果を出すことが期待される。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3 点

(総論)

適正に執行されているが、人件費が多い点が若干危惧される。

(コメント)

- 適正に執行されていると判断される。
- 人件費が多い点が、若干危惧される。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4 点

(総論)

他のプロジェクトとの連携等を通じて、実施計画の効率化を図っている点や、標準化活動の進捗が見られている点が評価できる。今後は W3C などでの標準化も期待される。

(コメント)

- 有効かつ効率的な計画であり、他のプロジェクトとの連携等を通じて、実施計画の一層の効率化を図っている。
- 実環境による、現実に則したスマートコミュニティのモデル構築・展開について評価できる。
- 当初の提案と比較して Wi-SUN 等の取組を踏まえた実施計画となっている点や、標準化について進捗が見られる点について評価できる。
- W3C/web への提案に対する取組が期待される。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4 点

(総論)

StarBED の活用により、予算計画の効率化を計っている点について評価できる。

(コメント)

- StarBED の活用により、予算計画の効率化を計っている点について評価できる。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3 点

(総論)

複数の研究主体が密に連携した実施体制となっている点や、電力関係者との連携が取られている点について評価できる。

(コメント)

- 複数の研究主体が密に連携した実施体制となっていると判断できる。
- 電力関係者との連携が取られている点について、評価できる。